

## 第2回「歴史と文化が薫るまちづくり事業」検討委員会での委員発言（要旨）

文責 事務局（地域振興課）

地区	意見
全般	<p>国においては、歴史まちづくり法に基づき歴史文化基本構想を策定するという、規制色を持たない、支援に特化した事業が創設された。高岡市も同構想を策定しており、これと連携を図っていくべきである。</p> <p>モデル地域の5つの都市は、それぞれ事業にふさわしい都市だから、これを機会に、まちづくりに関する大きな基本構想の手がかりになるようにすればよい。</p> <p>計画策定に関しては、選択と集中、つまり「この地域の特色はこれ」と絞り込まないと観光振興ビジョンの地域版になってしまう。なんでもありではいけない。</p> <p>たとえば、魚津や生地マップなどは、地元で熱心な人がいて、手間をかけて作られている。「こんなものを見せたい」が一枚にまとまっており、ストーリーがある。</p> <p>地域を調べるとということ、ストーリーを考えること、コースを作ること、マップをつくること、そういうことをきちんとやっていたら、絞られたコンセプトになる。</p> <p>今日の報告で、いくつかの手がかりがあった。黒部の場合はすべてが水にかかわるものだ。食、酒、清水。これは地形的なものもあるが、地域全体が水にかかわるものになっており、それが各所に現れてきている。</p> <p>高岡の場合、あれほど町屋に茶室がしつらえてある家が多いところはない。日本一ではないか。それを調べてみれば発信できる。そうすれば、そこに冬の雪景色が加わり、レベルの高い室内文化生活が見えるのではないか。</p> <p>城端の「寺内町」の文化は重要である。日本で寺内町は珍しい。それが富山県にいくつもある。これは外向きには一向宗の信仰の発信、内向きには寺を中心としたまちづくりの自覚である。これにスポットを当てていけば、他にはないいいシナリオができる。</p> <hr/> <p>富山には歴史文化はあるが、繊細でないところがある。日本人には繊細な感性が必要である。</p> <p>今日のプレゼンには世界観が足りない。茶の文化、絹の羽織など、ディテールには世界観が見えるのに残念だ。</p> <p>観光地として長く愛されている町には繊細さがあり、そこに我々は「日本人でよかった」と感じる。</p> <p>外国人は天皇が泊まった宿が簡素であることにびっくりする。丁寧、繊細というものが富山にほしい。</p> <p>八尾の和紙文庫などは繊細で簡素であり、芸能もあり、そういうエレガンスさがある。こういうものを生かしていけばよい。</p> <hr/> <p>歴史と文化に絞って議論してソフト・ハードをやっていくために、地区で光るものを選んで磨いていく。「観光」で考えるのか「まちづくり」にするのかという点はあるが、観光の視点も大切。</p> <p>観光に携わるものとして、県でポイントを絞り、そこを磨いていくような仕組みが大事と思う。北陸地域、富山県内で連携していくことも大事。</p>

	<p>地域資源を掘り起こした後、どう組み合わせをしていくかだが、氷見の「まんが」と「食」の組み合わせは驚いたし面白い。まんがの好きな人が食を求めてやってくるというのはわかりやすいし新鮮だ。</p> <p>訪れてくれる人の視点から言えば、市のホームページは絵と字なのでわかりにくい、映像で紹介するのもよい。個人旅行の場合、ホームページで調べていく。最近は携帯に動画をダウンロードしてくる時代である。</p> <p>わかりやすく地元を紹介していくことが地元の人にも地元を理解してもらうことになる。</p>
高岡	<p>高岡は歴史文化的源が豊富なので、それがあだになり幅を広げすぎていると感じた。もう少し絞り込んで歴史を発信するようになればよい。</p> <p>全般的に、外向けはもちろん、住民向けにも発信すべきである。市民、住民に知る機会を与える。そのため、教育との関連も重要。</p> <p>高岡のすぐれた資源は点としては素晴らしいが、文化が薫るように、線、面でつなぐように資源を磨き上げられないか。</p> <p>個別の資源は完成度が高いが、結びつけるものが弱い。地域資源は、自転車で回れるくらいの距離にあり、ほどよく離れている。いい間隔で散らばっているのではないか。</p> <p>古城公園の持つ自然の存在感を感じたが、いろんなものがあり、何が古城公園の特徴なのかがわからず、本当の魅力が伝わらない</p> <p>高岡は美意識が高いことを再認識した。山町筋で実際に住んでいる家の空間の、忘れ去られている日本の美しさが象徴的だった。</p> <p>古城公園は歴史的に面白く不思議な空間で、埋もれている資源を発掘すれば歴史的ストーリーが作れそう。これを物語にすれば、子供たちにとっても「古城公園はこんなに面白い」と感じてもらえると思う。</p> <p>エリア外だが、高岡の駅南、瑞龍寺から新幹線の駅付近にも古い街並みがある。フランス人を案内した時、山町筋でも金屋町でも、町並みよりも、家の中に入った時の質の高い室内空間に感心していた。特に、座敷から庭をながめる景色を一番素晴らしいといていた。</p>
魚津	<p>城跡も素晴らしいが、松倉城跡からの眺めが絶景。なぜここに城が建てられたかがよくわかった。是非登ってほしいし、登ってもらわないとわからない。</p> <p>城、米蔵など、その場で説明してもらってはじめて理解できた。ということは説明してもらわないと通り過ぎることになる。</p> <p>魚津城跡は、遺跡は残っていないが歴史の背景や物語はすごいので、単なる文字だけの案内ではなく、興味がそそられる解説板があるといい。</p> <p>米蔵は壮大な土蔵で内部も素晴らしいし構造的にも素晴らしい。中に入ると感動する。氷見にかつてあった網蔵に匹敵する。北前舟の歴史と一緒に考えると素晴らしい。所有者は民間だが、今年は市の事業で改修されると聞いており、是非多くの人に見てもらいたい</p>
氷見	<p>商店街をめぐる時、「トイレ貸します」と書いてあった。おかみさんの会が行っ</p>

	<p>ているそうだが、住んでいる人達がまちづくりに参加しているのがわかってよかった。</p> <p>観光客誘致はもちろん、住んでいる人がまちづくりの主体となり、一緒になってやっていくことに支援できればよい。</p> <p>氷見は、万葉にかかわる資源も多い。高岡に遠慮しているようにも見受けられるが、高岡と連携して打ち出していけばよい。</p>
	<p>エリアからはずれるが、氷見発祥の定置網関連の灘浦の船小屋や番屋もよい。網元の家がすごく立派で全国的に評価されるものである。個人の住居なのであまり公開されていないのが残念。</p> <p>古墳群もエリア外だが素晴らしい。「こういうものもあります」ということで書けばどうか。</p> <p>エリア内では本川委員の家やその近くにある木造3階建ての家がよかった。</p>
黒部	<p>ボランティアガイドグループの会長さんの案内で清水を回った。上手なガイドでよくわかったが、限られた時間では盛りだくさんだった。天気や体力なども加味してコースを設定すればよい。</p> <p>清水は歩けるエリアにあり、微妙に味が違うのもよい。清水めぐりをしながら食文化など立ち寄りスポットを織り交ぜていけばよい。</p> <p>魚の駅に足水があった。疲れた足をつけてもらうというのはよい。</p>
南砺	<p>城端を一時間半くらいで歩いたが、歩いてまわるのに、わかりやすくコンパクトに凝縮されており、楽しく回りやすかった。</p> <p>案内していただいたボランティアガイドが上手で、まちを愛する熱意が感じられて好感をもった。絹の羽織を着ておられたが、スタイリッシュな美意識が感じられよかった。</p> <p>城端は「和のテイスト」だとさらに強く感じた。</p> <p>端唄や機織の音など心地よい音が聞こえる町だ。特に機織機の音がよかった。音の演出ができればよい。</p> <p>城端には、粋でおしゃれなサインが似合う。全体でバラバラにならないように。</p> <p>五感（なれずし、どじょう蒲焼、水車の音）で感じるできるので、20代の女性にも受けると思う。</p> <p>善徳寺の宿坊を磨けばすごく魅力的なものになると思うし、今はこういうものが受けている。</p> <p>小京都のブランドがつくだけあって、五感に訴えるものがある。できるだけ長い時間滞在してほしい。そのためにも観光施設が、特に宿泊施設が充実していない。夕食後にそぞろ歩きをしてもらえる施設がほしい。</p>